

問1 平安時代初期、遣唐使として唐に渡り、帰国後に新しい仏教の宗派を広めた人物について、空海が行った活動の説明として適切なものはどれですか。（2017年 高知公立入試 類似）

1. 高野山に金剛峯寺を建立し、真言宗を広めた。 2. 比叡山に延暦寺を建立し、天台宗を広めた。 3. 知恩院を拠点として、浄土宗を広めた。 4. 臨濟宗を伝え、幕府の保護を受けて禅宗を広めた

問2 平安時代中期、中央の朝廷から諸国に派遣され、現地の政治や徴税の実務を担っていた役職を何と呼ぶか、次の中から選びなさい。（2016年 広島公立入試 類似）

1. 国司 2. 戦国大名 3. 県令 4. 将軍から領地を与えられた大名

問3 平安時代末期の政情から鎌倉幕府の成立までを説明した次の文章において、空欄①と②にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを選びなさい。「12世紀半ば、鳥羽上皇の死をきっかけに皇室や貴族が二つの勢力に分かれて衝突する（①）が起こった。この戦いを通じて武士の力が認められるようになり、その後の動乱を経て平氏を倒し、鎌倉に幕府を開いた（②）による武家政治へとつながっていった。」（2025年 栃木公立入試 類似）

1. ①保元の乱 ②源頼朝 2. ①平治の乱 ②源義経 3. ①承久の乱 ②北条時政 4. ①保元の乱 ②足利尊氏

問4 東北地方に独自の文化を築いた奥州藤原氏が、鎌倉時代初期に滅亡へと追い込まれた背景について述べたものとして正しいものはどれですか。（2021年 大阪公立入試 類似）

1. 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため 2. 足利尊氏による新しい政治体制の樹立を拒み、武家勢力の反感を買ったため 3. 自由な商工業を重視する政策が、当時の朝廷が定めた律令制度に違反したため 4. 鎌倉幕府を樹立しようとする平清盛の勢力拡大に巻き込まれたため

問5 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。 2. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。 3. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。 4. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。

問6 平安時代中期、貴族を中心に「浄土信仰」が急速に広まった背景には、仏教の教えが衰える時期が来るとされる思想の影響がありました。この時代に平等院鳳凰堂のような華麗な建築が作られた理由となる、当時の社会情勢や考え方を説明したものとして適切なものを選んでください。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。 2. 国家の保護を受けて、鎮護国家の思想に基づき巨大な寺院を建てる必要があったため。 3. 禅宗の普及により、厳しい修行を通じて悟りを開くことが貴族の理想となったため。 4. 遣唐使が廃止されたことで、中国の文化を否定し、日本独自の武士の文化が成長したため。

問7 12世紀後半、平清盛は中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に進めるため、現在の神戸市にあたる瀬戸内海の要所に港を修築しました。この時、大型船が直接入港できるように整備された港の名称を次の中から選びなさい。（2019年 福島県公立入試 類似）

1. 大輪田泊 2. 博多 3. 長崎 4. 堺

問8 10世紀の平安時代中期、関東地方で平将門が乱を起こしたのとほぼ同時期に、瀬戸内海の家賊を率いて朝廷の政治に対する反乱を起こした人物は誰ですか。（2019年 香川公立入試 類似）

1. 藤原純友 2. 平将門 3. 源義朝 4. 北条泰時

問9 平安時代末期、白河上皇の邸宅跡からは当時の高度な文化を示す青磁などが発掘されています。このように、天皇が位を譲った後も「上皇」として自らの居所で政治の実権を握り、天皇に代わって政治を執り行う形態を何と呼びますか。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. 院政 2. 摂関政治 3. 武家政治 4. 合議制

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 高野山に金剛峯寺を建立し、真言宗を広めた。	空海は最澄とともに遣唐使として唐に渡り、帰国後に真言宗を伝えました。彼は現在の和歌山県にある高野山に金剛峯寺を建て、修業の場としました。これに対し、最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めており、両者は平安時代の新しい仏教の二大勢力となりました。
問2	<b>答え 1</b> 国司	律令制のもとで中央政府（朝廷）から地方の「国」に派遣された官吏を国司と呼びます。平安時代中期には、戸籍による統治が困難になったことを背景に、朝廷は国司に現地の支配や徴税を大幅に委ねるようになりました。
問3	<b>答え 1</b> ①保元の乱 ②源頼朝	鳥羽上皇の死後に発生し、崇徳上皇方と後白河天皇方に分かれて戦ったのは保元の乱です。この乱には源義朝や平清盛などの武士が動員されました。その後、平清盛が権力を握りますが、最終的に平氏を滅ぼして鎌倉幕府を開いたのは源頼朝です。
問4	<b>答え 1</b> 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため	源頼朝は、対立した弟の源義経が平泉へ逃げ込んだことをきっかけに、奥州藤原氏への攻撃を開始しました。しかし、その背景には義経の保護という口実だけでなく、当時東北地方で独立した強大な勢力を持っていた奥州藤原氏を排除し、全国的な支配を確立したいという頼朝の政治的な目的がありました。
問5	<b>答え 1</b> 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。	藤原氏は、天皇の成長段階に合わせて役職を使い分けました。天皇がまだ幼く、自身で判断ができない時期には「摂政」として代行し、天皇が成人してからも「関白」として常に天皇のそばで報告を受け、実質的な決定権を握り続けました。これらを合わせて「摂関」と呼びます。
問6	<b>答え 1</b> 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。	平安時代中期（1052年頃～）には、仏の教えが正しく伝わらなくなる「末法」の世が来ると信じられていました。この「末法思想」による不安から、阿弥陀如来にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が爆発的に広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂は、まさにその切実な願いを形にした建築物であり、当時の日本独自の「国風文化」の象徴でもあります。
問7	<b>答え 1</b> 大輪田泊	平清盛は、武士として初めて太政大臣の地位に就くと同時に、日宋貿易による経済力の強化を図りました。その際、瀬戸内海の航路を整備し、現在の兵庫県神戸市にあたる場所に「大輪田泊（おおわだのとまり）」を修築して、宋の商船が都の近くまで来られるようにしました。博多は九州の貿易拠点、長崎は江戸時代の出島、堺は室町時代以降に栄えた港町です。
問8	<b>答え 1</b> 藤原純友	10世紀前半、地方政治の乱れに乗じて各地で武士の反乱が相次ぎました。関東での平将門の乱に対し、瀬戸内海で反乱を起こしたのが藤原純友です。これら二つの動乱を合わせて「承平・天慶の乱」と呼びます。当初は朝廷の官吏（伊予掾）であった純友が、瀬戸内海の高僧を組織して反乱へ至った過程は、地方における武士の台頭を象徴しています。
問9	<b>答え 1</b> 院政	11世紀後半に白河上皇が始めた政治形態です。藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を持っていた摂関政治を抑え、皇室が政治の主導権を取り戻すために行われました。天皇が位を譲り、上皇となった後も「院庁」という独自の役所を置いて実権を振るいました。